

# 「鑑賞ルーペ」を使用した 図工科デザインの授業実践報告

**研究目的** 本大学の美術・書道教育部門の青木らが開発した“美術館鑑賞教育教材『アートとともだち』”の鑑賞活動を補助するアイテムである『鑑賞ルーペ』を活用した教育実践を通じて認められた児童の様子や課題等についてまとめる。

## 実践内容

### (1) 対象

小学部3～6年生の児童11名  
(ばななグループ児童 6名)  
(すいかグループ児童 5名)

### (2) 期間

ばななグループ  
(9月7日～10月19日 計5回)  
すいかグループ  
(9月7日～10月26日 計6回)

### (3) 内容

『鑑賞ルーペ』等(図1～6)を使用し、写真やイラスト、景色等を「焦点化して見る」「好きな場所を切り取って見る」、切り取ったものでデザインする。

## (4) 使用した道具



図1 『鑑賞ルーペ』



図2 『板付き鑑賞ルーペ』



図3 『型付き鑑賞ルーペ (ちょうちょう、車)』



図4 『穴空きの板』



図5 『型付きの板 (ちょうちょう、車)』

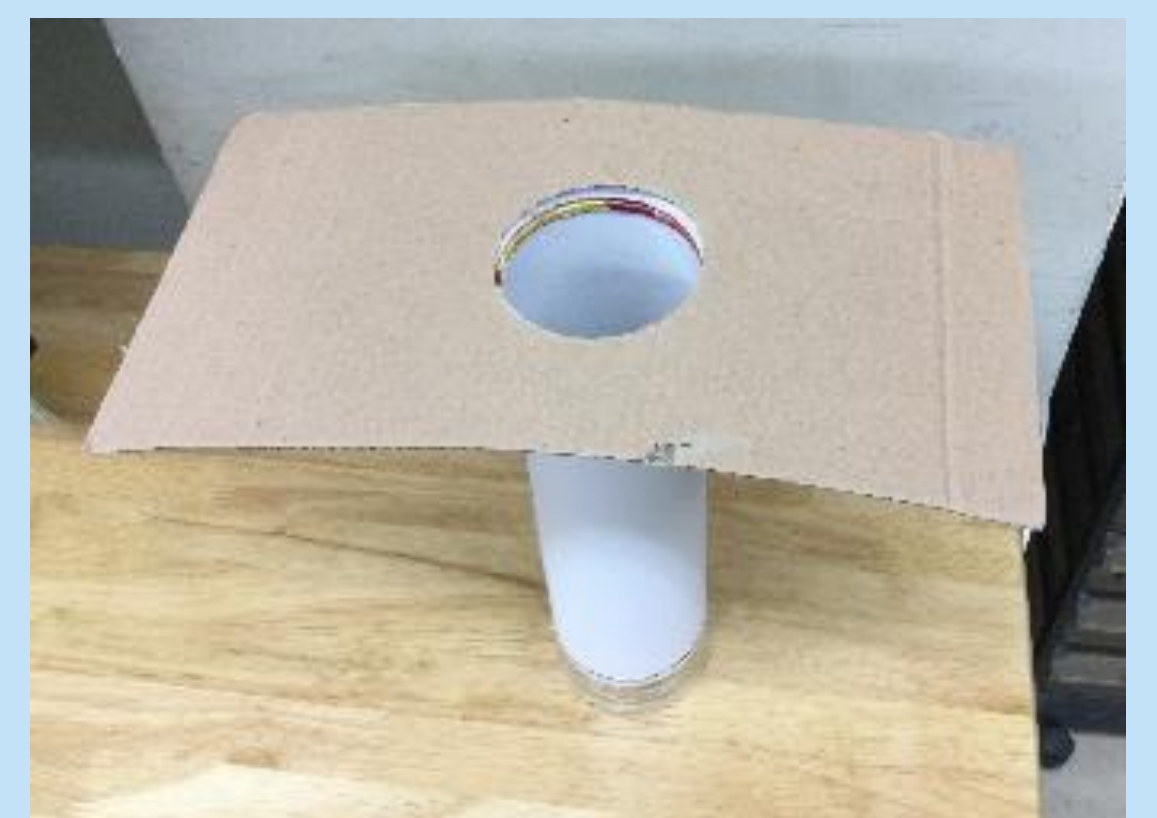


図6 『筒付きの板』

## 児童の様子

### 《ばななグループ児童A》

好きな色のところに『穴空きの板』(図4)を動かしていた。また、車の『型付きの板』(図5)を好きな場所に置いて、いつも車に乗っている父親を連想し「パパ」と話していた。『穴空きの板』よりも車の『型付きの板』を置いて場所を切り取ることに意欲的であった。

### 《すいかグループ児童B》

色画用紙は色の重なるところ、単色のところとたくさん場所を切り取って見ていた。写真やイラストの上に『鑑賞ルーペ』(図1)や『型付き鑑賞ルーペ』(図3)を置く際、「空」「山」「ラベンダー」等と自分の切り取りたい場所を意識しながらルーペを積極的に動かして教員に写真を撮ってもらっていた。繰り返し取り組んでいく中では、「いいこと、知っちゃった」「(アイデアが)どんどん湧いてくる」という発言もみられた。教室内や外に出て『型付き鑑賞ルーペ』(図3)を好きな場所に置いて写真を撮る活動にも意欲的に取り組んでいた。写真に撮ってもらった場所を写真スライドで確認する際には、他の児童の切り取った場所についても興味をもって見ていた。

最後に自分で模様をデザインする際には、これまでの学習を活かして細かな模様を描き、好きな場所に『鑑賞ルーペ』を置いて模様を切り取っていた。



## 実践のまとめ

ばななグループにおいては、当初から課題となっていた枠の内側に注目して見るということが難しい面があったので、最後まで『鑑賞ルーペ』の使用には至らず、『穴空きの板』や『型付きの板』を使用するに留まった。穴を覗くことを意識できるようにするため、イラストを『穴空きの板』で隠し、隠されたものをあてるクイズをしたり、『筒付きの板』(図6)を使用して穴を覗くことをより意識できるように取り組んだ。その結果、自分の好きな場所に板を持っていったり、切り取った模様注目したりする姿がみられるようになった児童もいた。穴の中に何があるのかを覗きたくなるような状況を設定すること、繰り返し行うことで方法を理解できるようにすることが重要であると考えられた。

すいかグループにおいては、『鑑賞ルーペ』が有用であったと考えられる。使い方が理解でき、その面白さに気付くと、自ら積極的に『鑑賞ルーペ』を使用して自分の好きな場所を見つけたり、まずは『鑑賞ルーペ』を置いてみてその中を覗くことを楽しんだりする姿が見られた。ルーペで切り取った場所を写真に撮り、写真スライドで拡大して見ることで、何気なく切り取った場所にある模様に気付くことができ、それをみんなで共有することで、『鑑賞ルーペ』の使い方の幅が広がっていった。発達段階が上がるにつれて『鑑賞ルーペ』の有用性も上がり、それぞれの感性や違った観点から景色等を切り取って見ることができていた。